

さん ぽ 気街散歩

秋葉原

多彩な顔を持つ街へ 秋葉原界限



世界的に有名な電気街「アキバ」。もとは、太平洋戦争終戦後の闇市から、徐々にラジオ部品を専門に扱うようになり、1951年の露店整理令によって、ガード下に收容されたことが始まりといわれている。しかし、秋葉原は電気街だけではない。山の手と下町の接点に位置し、少し歩けば両方の顔が見える街である。今回は、多彩な顔を持つ秋葉原界限を歩く。

柳森神社

▲1457年、太田道灌が江戸城の鬼門除けとして神田川岸に創建した神社。後に、現在の地に移された。境内に祀られている福寿神は「お狸さん」と呼ばれ、出世や商売上手の神様として信仰されている。

ニコライ堂

▶正式名称は「日本ハリストス正教会復活大聖堂」。日本最大のビザンチン様式の大教会で、ロシアの大主教ニコライが、1884年から7年かけて建設した。関東大震災で被災し、現在の建物は、1929年に修復されたもの。同教会の鐘の音は、神田名物となっている。





中央線高架下

◀中央線の神田駅～御茶ノ水駅間は、レンガ造りの高架下が続いている。現在は、主に駐車場として利用されている。



神田明神

▶730年の創建といわれる神田神社。もとは、平将門の首塚の隣(現在の大手町)にあったが、江戸城の拡張で現在の場所に移された。江戸時代には、江戸の総鎮守として將軍家の底護を受け、その祭礼は“天下祭り”とも称された。現在も、2年に一度「神田祭」が行われている。

JR秋葉原駅から電気街を抜け、最初に向かったのは「万世橋」。川向こうには、1949年創業の「肉の万世」本店タワーと、旧万世橋駅(現・交通博物館)の名残を残す赤レンガ壁が並ぶ。交通博物館で、懐かしい蒸気機関車や模型鉄道パノラマを見た後、川沿いの「柳森神社」へ。ここが他の神社と異なるのは、境内に多くの狸像があること。一般的に神社といえば“お狐さま”だが、ここは“お狸さん”なのである。狸が持っている笠、徳利、通帳、金袋などは世渡り上手の必需品とされ、出世や商売上手の神様として信仰されたという。狸に出世を願うとは、さながら日本昔話の世界であり、なんともほほえましい。

線路沿いに歩いていくと、また赤レンガ壁に出会った。神田駅～御茶ノ水駅間をつなぐ線路の緩やかなカーブに合わせて、赤レンガのアーチが並ぶ。上を走る中央線のオレンジ色の車体と、高架下の赤レンガの色が絶妙で、思わずカメラのシャッターを切った。

神田須田町の老舗街を抜け、坂道を上って、本郷通りに出る。通り沿いには、周囲とは趣を異にした「ニコライ堂」が見える。日本最大のビザンチン様式の教会だ。今回は、聞くことができなかったが、名物ニコライの鐘の音は、機会があればぜひ聞いてほしい。とても澄んだエキゾチックな音色である。

聖橋から、右手の「湯島聖堂」に入る。ここは、江戸時代から再三火災に遭い、現在の建物は、入徳門と水屋を除き、1935年に再建されている。高い塀に囲まれているせいか、外の騒音はほとんど聞こえない。樹木が生い茂り、凜とした空気が漂う中を歩いていると、自然と背筋がピンとしてくる。大成殿にお参りをすませ、「神田明神」の愛称で親しまれる「神田神社」へ。

この神社を最初に知ったのは、時代劇「銭形平次」だった。平次親分の銭投げに憧れ、何度か挑戦したが、上手いかなかったという苦い思い出がある。鳥居をくぐり、朱赤の神門へ進む。現在の神門は、関東大震災で焼失したものを、焼失前の写真や図を用いて復元したという。境内は、そんなに広くはないが、摂社、末社、水神社など多くの神社のほか、「銭形平次の碑」もあり、一回りするのにも時間がかかる。

神社前の甘酒屋で一息入れ、出発地秋葉原駅に向けて歩き出す頃には、もう日が暮れ始めていた。夕闇が増すとともに、周りには派手なネオンサインが増えていく。そのあまりの賑やかさに、夜は夜らしく、昔のような暗闇の静寂に包まれていたいと思った。

参考文献:「東京都の歴史散歩<上>」(山川出版社)、「江戸・東京 歴史の散歩道2」(街とくらし社)



老舗街

◀◀神田淡路町・神田須田町界限には、「東京都選定歴史的建造物」に選定された5店の老舗がある。いずれも、創業は江戸～明治時代で、建物は大正～昭和初期の木造建築。写真左は、1897(明治30)年創業の鳥すきのお店「ぼたん」。同右は、1884(明治17)年創業の蕎麦屋「神田まつや」。



万世橋から昌平橋を望む



万世橋

▲▶1872年、江戸三十六見附の一つ「筋違見附門」が取り壊され、その石材を利用して東京最初の石橋「万代橋」が架けられた。この橋は、後に撤去されたが、現在の場所にてきた鉄橋を「万世橋」としたところ、いつしか“まんせい橋”と呼ばれるようになったという。現在の橋は、1930年の架設で鉄筋コンクリート造。

湯島聖堂

◀好學で知られる5代将軍綱吉によって建設された学問所。孔子廟(大成殿)のほか、現在の東京医科歯科大学辺りに、御成御殿や学寮が設けられた。寛政時代には、老中松平定信により、幕府の正式な学校として「昌平坂学問所」と名づけられる。明治維新後は、近代教育の発祥地として知られるようになった。

